

金澤鹽務局

飯田出張所之部

金澤鹽務局飯田出張所之部

第一章 鹽田位置、地勢、地形等

管内ニ於ケル鹽田ハ南ハ松波村字布浦ヨリ北ハ三崎村字寺家ニ至ル灣曲セル海岸線二十哩餘ニ亘ル線ニ沿ヒテ點在シ鹽田ノ巾廣キハ四十間狹キハ二十間ニ充タサルモノアリ鹽田ハ上戸村ヲ除クノ外ハ大概平坦ニシテ直村、見舟村、鵜島村ノ如ク數十町歩連續シテ海岸線ヲ占有セル所アリ

鹽田附近ノ地勢ハ海岸ヲ去ルコト里餘寶立山脈ノ南ヨリ北ニ馳スルアリ山麓ヨリ海岸ニ至ルノ間數多ノ丘巒起伏シ其間ヨリ大小ノ谿流海ニ注キテ鹹度ヲ稀釋シ殊ニ降雨ノ際ハ森林若シクハ丘陵上ニ降下シタル雨滴ハ悉ク海ニ注クヲ以テ晴後二三日間波浪穩カナル時渾濁セル淡水ハ海面ニ層ヲナシ遠ク一哩餘ニ亘リ鹹度僅ニ二度ニ及ハサルコトアリ而シテ管内鹽田ノ大部分ハ能州半島内海内ニ在ルヲ以テ満干ノ差ナキノミナラス波浪常ニ低ク淡水ト海水ノ混合スルコト鈍ク淡水ハ常ニ海ノ上層ヲ占ムルヲ以テ汲揚海水量多キニモ係ラス鹽分ノ含有量ハ遠ク外海ニ及ハサルモノトス

第二章 鹽業ノ沿革

此ノ地製鹽ノ起源及封建時代ニ於ケル鹽制等ニ至リテハ既ニ大藏省江角氏ノ編纂ニ係ル各國鹽制調査書ニ審カナルヲ以テ更ニ再說スルノ要ヲ認メス唯王政維新后特ニ記スルニ足ルヘキ事蹟ノ概要ヲ載錄セン

鹽制調査書ニ詳記シアルカ如ク藩政時代ハ加賀藩ノ保護政策ニ由リ當地方鹽製造業者ハ藩制ヲ遵奉シ一定ノ鹽ヲ製造シ納付セハ亦他ヲ顧慮スルノ要ナカリシカ王政維新ノ變革ト共ニ明治五年ヨリ藩ノ保護ハ全ク絶ヘ製鹽者ハ俄然資金ヲ仰クノ途ヲ失ヒ幾ント一般破産ニ至ラントスルノ慘狀ヲ呈セリ

然ルニ舊七尾縣參事兵頭正懿氏ニハ救濟ノ方法ヲ立テ以テ既ニ舊藩ニ於テニ、四ノ兩月ニ米壹萬二千石ヲ貸與シタルノ例ヲ踐ミ尙ホ當年ニ於テ同石量ヲ一般ニ貸與シ以テ一時ノ急ヲ救ヒタリ

次テ同五年九月同氏ニハ是等地方ノ實情ヲ其筋ニ稟請シ能登四郡内中沼村外百九十四ヶ村貢租米五ヶ年賦返納ノ條件ニテ恩貸米三萬五千三百二十六萬石五斗六合ヲ該年貢租一石代價壹圓五拾錢積リニ換算シ金五萬二千四百二十四圓四拾壹錢七厘ノ恩貸ヲ受ケ右中沼村外百九十四ヶ村ノ製鹽高四十九萬七千四百二十八俵ニ割當テ即チ

羽咋郡製鹽高	七三、一一〇俵 貸付金高	七、七〇五、一三三
鹿島郡同	一二、八二二俵 同	一、三五一、三二三
鳳至郡同	九三、八四七俵 同	九、八九〇、六二六
珠洲郡同	三一七、六四九俵 同	三三、四七七、三二五

利子一ヶ月金壹圓ニ付キ壹錢貳厘ト定メ尙ホ取締規則十八ヶ條ヲ編成シ許可ヲ得テ分貸セリ

而シテ右資金ハ翌年(明治六年)所謂口郡(羽咋、鹿島)ト奥郡(鳳至、珠洲)ノ二區ニ分割シ五ヶ年後ニ至リ全ク政府ニ返納ヲ終ヘ其ノ利殖上ヨリ得タル金額ハ製鹽資本トシ毎年當業者ニ有利附ニテ貸付來リ其後明治十四年に至リ鳳至、珠洲二郡ノ製鹽關係者ハ熟議ノ上此利殖シタル資金ハ再ヒ二郡ニ(鳳至郡金六千九百三圓九拾四錢七厘
珠洲郡金貳萬三千三百六拾八圓拾八錢五厘)分割シタルモ鳳至郡ハ其ノ管理方法宜シキヲ得ス現今更ニ其形迹タニ存セサルモノナリトイフ而シテ珠洲郡ハ其後一ヶ月三朱乃至五朱ノ低利附地價抵當ヲ以テ付クルノ方法ヲ以テ逐年利殖ヲナンシ爰ニ現時珠洲郡鹽業獎勵財團ノ基本金トシテ四萬壹千六百參拾圓七拾五錢貳厘ノ巨額ヲ見ルニ至レリ

然ルニ地價抵當貸付ノ弊トシテ貸付金ノ半額以上ハ多少資力アル地主ノ手ニ落チ且ツ他ノ用途ニ使用セラレ事實小作人ノ製鹽資本ニ供セラル、モノ年々其ノ額ヲ減ジ殆ント貸付ノ金額ハ地主ノ壟斷スル所トナリ當業者タル小作人ハ該資金ニ據テ地主ヨリ反テ高利ヲ貪ラル、ノ弊害ヲ釀スニ至レリ加之當時ハ資金取締ニ關スル規則ノ外鹽業其ノモノニ付テハ舉テ當業者ノ自由ニ放任シ毫モ保護獎勵ノ途ヲ講セサリシ爲メ粗製濫造所謂投ケ賣等ノ弊風熾ニ行ハレ明治二十四五年頃ニハ著シク萎微衰沈シタリキ茲ニ於テ當時ノ製鹽資金取扱規則ヲ廢シ明治二十六年更ニ石川縣珠洲郡製鹽取締規則ヲ制定シ依テ以テ資金ノ取扱ニ關スル事項ヨリ鹽ノ製造其ノ他ノ事項ニ涉ル諸般ノコトヲ網羅シ以テ鹽業發展ノ實ヲ舉ケント企テタルモノ、如シ

次テ明治三十一年各製鹽地毎ニ鹽業組合ヲ組織シ斯業ノ發達改良ヲ促シタリ而シテ該組合ノ主タル事蹟トシテ茲ニ記スルニ足ルヘキコトハ製鹽資本金ヨリ補助ヲ得テ組合共同倉庫ヲ設立シ亦其ノ倉庫ニ收容セシ製鹽ハ組合事務所ニ於テ一手ニ賣渡ス等亦同時ニ製鹽資金ノ貸付方法ヲ改メ共同倉庫ニ納付シタル製鹽ヲ擔保ト見微シ貸付クルコトニ改定セリ此ノ改則ニシテ

茲ニ始メテ資金ハ眞ノ製鹽者ノ共用スル所トナリ一旦衰運ニ傾キタル鹽業ハ較々挽回セントスルノ趨勢ニ向ヒタリ超ヘテ明治三十五年全郡當業者ノ同意ヲ得テ重要物產同業組合法ニ據リ爰ニ石川縣珠洲郡製鹽同業組合ヲ組織シ「第十章」ノ下ニ述フルカ如キ組合ヲ設立シ次テ明治三十六年珠洲郡鹽業獎勵財團ヲ創設セリ而シテ組合及ヒ財團ノ組織及ヒ其ノ後ノ事蹟等ハ「第十章組合」「第八章販賣」等其他ノ各項目ノ下ニ述フルカ故茲ニ省略セリ

第三章 製鹽方法

甲 鹹水採收

一 鹹田ノ種類及面積 管内鹽田ハ撒灌式(揚濱)ニシテ一戸前即チ一釜屋ニ附帶スル鹽出ハ一行濱、二行濱、四行濱等アリ之レ等ハ専ラ釜ノ數ト比例スルモノニシテ釜一枚ハ二行ヲ以テ制限トス爰ニ一行ト稱スルハ鹽田中心ヨリおちよけ(打桶)ヲ以テ左右ニ海水ヲ撒布シ得ル作業區域ヲ云フモノニシテ巾七間乃至八間長三十間乃至四十間長即チ二百坪乃至三百二十坪トス此他釜屋敷地トシテ二十五坪ヲ有スルヲ普通トス

二 堤防面積等

該當事項ナシ

三 溝渠ノ面積等

該當事項ナシ

四 撒砂(鹹砂)浸出裝置

當管下ニ於テハ撒砂(鹹砂)ヲ浸出スルニ要スル裝置ヲ有セス鹹砂ハ總テ垂槽ト稱スル移動

性ノ器具ヲ用ヰテ濾過ス其構造大小形狀ニ關スル說明ハ採鹹器具ノ項ニ讓ル

五 撒砂(鹹砂)貯藏裝置

當地鹽業者ハ一般ニ鹹砂貯藏裝置ヲ有セス鹽田ニ於テ製セラレタル鹹砂ハ當日ニ鹹水ヲ採

取スルヲ例トス鹹砂ヨリ鹹水ヲ採取スル方法ハ採鹹作業ノ項ニ讓ル

六 鹹水輸送裝置

當管内ニ於ケル鹽業者ハ鹹水輸送裝置ヲ有セス垂レ槽ヨリ濾出セラレタル鹹水ハ實桶ヲ以テ直ニ

釜屋内ナル鹹水貯藏桶ニ擔送セラル

七 採鹹器具、構造、大小、形狀、効用、使用方法ハ左ノ如シ

荒鹽桶ハかい桶トモ云ヒ杉板ヲ以テ造リタル桶ニシテ別圖ニ示ス如キ形狀ヲ有シ口徑一尺二寸乃至一尺四寸底徑一尺二寸乃至一尺三寸高サ一尺二寸乃至一尺二寸ナル桶二個ヲ擔ヒ棒ニ連結シ海水汲ミ揚ケノ用ニ供ス其方法ハ之レヲ肩ニシテ海

中ニ入り海水ヲ汲ミ揚クルモノナリ

ひこけ(引桶) 杉板ヲ以テ造リタル桶ニシテ口徑三尺四寸乃至三尺八寸底徑三尺二寸乃至三尺五寸高サ一尺一寸乃至一尺二寸ニシテ鹽田ニ据ヘ海水撒布前及採鹹ノ時海水ヲ入ル、ノ用ニ供ス使用方法ハ各作業ノ進行ト共ニ移動セシメテ使用ス

みをけ(實桶) ハ荒鹽桶ト大小、形狀ヲ同クシ採取シタル鹹水ヲ貯藏桶迄擔送スルノ用ニ供ス

あい桶 モ亦荒鹽桶ト形狀、構造ヲ同フストレモ口徑其ノ他ニ於テ各一二寸小サク個々分離シテ組ヲナサス圖ニ示ス鉤ヲ有スルニかたね棒ニ由リ運搬セラル垂レ槽ヨリ鹹水採取後(あい)ヲ採取スルノ用ニ供ス

あいだれをつよけ 杉板ヲ以テ造リ口徑八寸乃至九寸底徑六寸乃至七寸高サ一尺二三寸鹹水及あいヲ採取ノ際海水ヲ注入スルノニ供ス

をちよけ(打桶) モ亦杉ニテ造リタル桶様ノ器具ニシテ口徑八寸乃至九寸底徑四寸高サ一尺八寸ニシテ引桶ニ汲ミ置キタル海水ヲ鹽田面ニ撒布スルニ用フ

柄振

ハ圖ニ示ス如ク板ニ柄ヲ附シタルモノニシテ板ハ櫻若クハ檍ニテ造リ丁字形ヲナス器具ナリ板巾八寸乃至九寸長

サ二尺八寸乃至三尺

柄

ノ長サ七尺乃至八尺五寸乾燥シタル鹹砂ヲ搔キ集ムルノ用ニ供ス

はね(刎) ハすくいばちトモ云ヒ籠部ハ櫻ニテ造リ圖ニ示ス如キ形ヲナシ其巾一尺長サ一尺六寸柄ノ長サ四尺トス垂レ槽ヨリ出シタル骸砂ヲ鹽田ニ刎散スルニ用フ

だし籠

ハはねト其構造形狀材料トモ同シキモ稍小ナリ即チ籠部巾五六寸長サ一尺三寸柄ノ長サ三尺ニシテ垂レ槽ヨリ

骸砂ヲ出スニ用フ

もち(持)

ハ藁ノぬいご繩ヲ用井縱横ニ編ミタルモノニシテ兩端ニ竹ヲ附シ巾九寸乃至一尺長サ二尺七八寸鹹砂ヲ垂レ

槽ニ入ル、ニ用フ

こまさらひ

ハ杉ノ一寸五分乃至二寸角長サ五尺八寸乃至八尺ノ角材ニ竹ノ齒ヲ植ヘ柄ヲ附シタルモノニシテ柄ノ長サ

六尺乃至九尺小ナルハ丁字形ヲナシ大ナルハイ字形ヲナス齒ハ補給式ニシテ齒ノ丈ケ一寸乃至一寸五分齒數ハ三十八乃至四十五アリ鹽田面ニ撒布シタル撒砂若シクハ骸砂ヲ爬起スルニ用フ

かたね棒 ハ桐ニテ造リ長サ三尺八寸乃至四尺直徑二寸周圍六寸ヲ有スル棒ナリ

砂濾し桶、ハ垂レ槽ヨリ採取シタル鹹水ヲ再ヒ濾過スルノ器ニシテ多クハひこけ(引桶)ノ古キモノヲ使用ス其ノ構造ハ鹹水濾過装置ノ説明ニ譲ル

こが(鹹水貯藏桶) ハ杉板ニテ造リタル桶ニシテ鹹水七石乃至十五石ヲ入ル、モノトス
垂れ槽 ハ採鹹器具中最モ複雜ナル構造ヲ有スル器ニシテ四脚ヲ有スル臺上ニ水槽様ノモノヲ据ヘ其中ニ下駄、目皿、蓆等ヲ下敷キトナシ其上ニ鹹砂ヲ盛リ鹹水ヲ採取スルノ用ニ供ス下駄ハ槽ノ最低部ニ下敷キトナシ目皿、蓆、鹹砂等ノ重量ヲ支持シ兼テ濾出スル鹹水ノ流通ヲ自在ナテシムル爲メ下部ヲ剝リアルモノニシテ横ニ三條ヲ有スルモノニアリテハ剝リアルヲ有セス

八 採鹹用器具新調費保存期限及員數等ハ左表ノ如シ

名稱的字	員數		新調期限	保存備考	名稱的字	員數		新調期限	保存備考
	一行濱	二行濱				一行濱	二行濱		
あらしを桶	荒鹽桶	一	二	二年 かい桶トモ云フ	だしべら	も	○	出シ籠	二
ひこけ	引實桶	一	二		こまざらい	ち			
みをけ	間桶	一	二						
あいをけ	間垂れ打桶	一	二						
あいだれを									
ちよけ									
をちよけ									
えぶり	柄打桶	一	二						
ね	振桶	一	二						
剝									
一									
二									
三									
四									
五									
六									
七									
云フ	すくいばちトモ								
か	かたねぼう								
こ	たれぶね								
が	すなこしな								
○	砂濾シ桶								
一									
二									
三									
四									
五									
六									
七									
八									
九	鹹水貯藏裝置ノ構造								
十	鹽田地盤ノ構造								
地	ハ一般撒灌式鹽田(揚濱)ナルヲ以テ其構造モ亦頗ル簡單ニシテ前記下層土ヲ鹽田トナスヘキ砂濱ニ運搬シ來リ荒土六寸乃至一尺ノ厚サニ盛リ之レヲ二寸乃至四寸ノ厚サニ敲キ固メテ地盤トナス之レ專ラ撒布セル海水ノ鹽田地層下深ク逸出ス								

ルヲ防止スルト兼ネテ乾燥ヲ促進セシムルトニ在ルヲ以テ地盤ハ固クシテ吸收力ヲ有セサルヲ最良トス

十一 撒砂ノ性質 撒砂ハ大抵其ノ鹽田附近ニ漂着シタルモノヲ採取シテ之レヲ利用スルヲ通例トス然レトモ波浪ノ關係ニヨリ撒砂トナスヘキ原砂ノ漂着セサルトキ或ハ砂粒ノ大ニ過キ若シクハ均一ナラスシテ原砂ニ適セサルトキハ之ヲ隣村ノ砂濱ニ需ムルモノトス

管内ニアリテハ松波村ノ如キ波浪ノ關係上撒砂トナスヘキ砂ノ漂着セサル所ニアリテハ年々之レヲ隣村鵜島ニ求メ蛸島村ノ如ク砂堆ノ豊富ナルニモ係ラス其砂質粗惡ニシテ砂粒大ニ過キ且ツ粘質ヲ帶ハサルヲ最良トシ色澤ハ青黒色ヲ呈スルヲ可トス硅砂ヲ混同シテ白ク光線ヲ反射スル砂ハ撒砂トナスニ適セス之レ白色ヲ有スル硅砂ハ光線ヲ反射シテ地面ニ温熱ヲ與ヘサルノミナラス砂粒ノ包含惡クシテ毛細管引力ノ乏シク又粘質ヲ帶ヒタル砂ハ地盤ニ密着シテ乾燥遲鈍ナルカ故ナリ之等ハ一般當業者ノ唱フル所ニシテ其他撒砂又ハ鹹砂ノ種類ニ依リ鹹水ノ良否濾出ノ遲速如何ニ至リテハ今尙研究中ニ屬ス

十二 撒砂ノ撒布量 季節ニ由リ土地ノ高低ニ由リ又鹽田地盤ノ良否ニ由リテ自然多少ノ差異アルヲ免レス即チ春秋二期ノ如キ大陽ノ照射スル光度弱クシテ乾燥スル時間短キ季節ニアリテハ其撒布量薄ク夏時蒸發旺盛ナル季節ハ之レニ反シ又鹽田ノ位地高クシテ乾燥速ナル土地ニアリテハ厚ク又地盤ノ永年使用ノ末殆ント磨却ニ垂々トシテ其効果ヲ有セサルモノニアリテハ厚キヲ常トス

今普通ノ地盤ヲ有スル鹽田ニシテ季節ニ由リ撒布量ニ差異アルヲ表示スレハ左ノ如シ 鹹田一坪ニ付調査

月	次	四	月	五	月	六	月	七	月	八	月	九	月	十	月
鹽田 一坪ニ對スル 砂量	全 容 量	八、〇〇〇 合	八、五五〇	八、七八五	九、二六五	七、三六二	六、四一二	一、三五	一、九五	一、八五	一、八〇	一、七〇	八、五五〇	八、〇〇〇 合	一、七〇

右ハ一般鹽田ニ就キ數多ノ調査ヲナシタル結果ヲ示シタルモノナリ而シテ當地ハ替砂トシテ特ニ之レカ補給ヲナスモノナキモ降雨毎ニ鹽田面上ノ撒砂ハ常ニ流失セラルゝ以テ便宜之レカ補給ヲナサレハ使用ニ適セス故ニ隨時之レカ補結ヲナスヲ例トス隨テ入替回數及ヒ補給量ハ降雨ト密接ノ關係ヲ有スルモノニシテ之レヲ詳ニスル能ハス而シテ撒砂ハ春季就

業ノ際全部入替ヲナシ之レヲ一年間使用スルモノトス

十三 撒砂乾燥ノ時間 撒布セラレタル撒砂若シクハ骸砂ハ午前五時マテニ爬砂ヲ行ヒ同六時海水撒布ヲ了リ夫ヨリ正午乃至ハ午後二時ニ至ルマテ擴置スルヲ通例トス尤モ當日ノ天候如尙ニ由リ多少ノ差異アリト雖トモ擴置(乾燥)時間ハ六時乃至八時間トス

十四 鹹砂濾過裝置ニ注入スル海水量ハ左ノ如シ

總海水量

八斗五升乃至壹石壹斗

鹹水採取用

あい(二番れだ)

三斗二升及海水五斗乃至六斗

あい採取用

三斗乃

至四斗

採鹹量

一斗二升乃至二斗四升

あい採取量

三斗二升

十五 海水鹹水二番だれノ性質ハ左ノ如シ

種類成分	比重	溫度	曹達化	不溶解物	鹽化	加里	苦土化	鹽土化	硫灰酸	硫土酸	採	取	地名
海 鹹 全 二番 だれ	二、五 三、五 一、八 一、六 一、五 一、四八〇四 一、四三八〇	二、〇四七 一、〇〇四七 一、〇五四 一、九三三 一、五五四 一、五五三 一、五五三	〇、四三七 〇、四三七 〇、五四 〇、五三 〇、五三 〇、五三 〇、五三	〇、四五七 〇、四五七 〇、四五 〇、四五 〇、四五 〇、四五 〇、四五	〇、五五八 〇、五六六 〇、五九〇 〇、五九〇 〇、五九〇 〇、五九〇 〇、五九〇	直 村 崎 村 村 野 江	直 村 崎 村 村 野 江	直 村 崎 村 村 野 江	直 村 崎 村 村 野 江	直 村 崎 村 村 野 江	村 野 江 濱 江 濱 江	試 驗 場 場 場 場 場	

右ハ二三ノ供試品ニ就キテ分折シタル結果ニ過ス確實ナル試験ハ後日ニ譲ル

十六 海水引入排出(水闇)海水汲揚裝置

海水汲揚方法ハ前既ニ述ヘタルカ如シ

十七 海水貯溜池

之レヲ有セス

十八 一ヶ年平均鹹水採收量

採鹹量ニ就テハ鹽田ノ乾濕關係ニ由リ又採鹹者ノ主義及其他ノ事情ニ由リ其量一定セ

ス今最近四五年ニ於ケル季節別採鹹日數表ヲ示サン

年月次	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	合計	開始期	終了期
三十三年	一	一七	二三	一一	一七	一二	一六	一	七八	五一	十月一日
三十四年	三	一八	一三	一〇	一七	一一	一六	一	四月廿四日	十月二十日	二日

年月次	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	合計	開始期	終了期
三十五年			一四	一八	一三	一八	一〇	七八	四月廿八日	十月十八日	
三十六年			一八	一三	四	二四	五	七八	四月二十日	十月七日	
三十七年			一四	一六	一〇	二八	六	一五	四月廿二日	十月十三日	
平均			一六	一六	一一〇	一二二	三	七九			

右表ニ示ス如ク採鹹作業ハ毎年四月二十日後ニ始マリ十月中旬ニ終ル而シテ採鹹日數ハ五ヶ年平均七十九日トス今左ニ一定反別ヨリ一ヶ年間採取シタル鹹水ヲ月別シタルニ左ノ如シ

一鹽田ノ位置 松波村字戀路九字六番地 一採鹹反別 一反八畝二十七步 一採鹹總量 六百二十五石六斗

右ハ松波村ノ一鹽田ニ對シ調査シタルニ過キスシテ管内各村鹽田ノ一定反別ヨリ一ヶ年間ニ採取シタル鹹水水量及製鹽量ハ左表ニ依テ示スカ如シ

一ヶ年ニ於ケル採鹹量及製鹽量

鹽田反別	鹽田位置	採鹹日數	總採鹹量	對鹽田壹反別採鹹量	製鹽重量	製鹽容量	對鹽田壹反別收鹽量	鹹水壹石ニ對
一反八畝十三步	松波村字松波十一字八十 六番地	八	六六八石	六六八石	三七〇石	三三三斤	一八九石	一五〇石
一反八畝廿七步	松波村字戀路九字六番地	八	六五六石	六五六石	三〇〇石	二五八六斤	一五〇石	一五〇石
一反七畝八步	鵜島村字鵜島廿一ノ四十 七番地見付村鵜養三ノ三十五番	八	四六〇石	四六〇石	二七〇九石	二三八六斤	一四五石	一四五石
一反	上戸村字南方	八	四〇〇石	四〇〇石	二七〇九石	一四七〇斤	一四五石	一四五石
二反八畝十九步	上戸村南方ノ三十壹番地	八	四〇〇石	四〇〇石	二七〇九石	二五〇四斤	一四五石	一四五石
三反二十四步		八	三八〇石	三八〇石	二七〇九石	二五〇四斤	一四五石	一四五石

二反二十六步

二反二歩

一反四畝步

一反六畝九步

一反三畝步

二反二畝廿三步

三反二畝廿八步

三反六畝十四歩

直村字野々江ホノ四番地

ノ二

直村熊谷十一字五番ノ一

番地

崎島村崎島タノ百七十八

番地

崎島村ラノ部

鉢崎村字小泊三ノ甲番地

鉢崎村字伏見カノ三十九

鉢崎地甲

鉢崎村宇字治ヨノ九十七

番地

三崎村字栗津ホノ一番地

八〇、〇

七二〇、〇

三五八、八

三七〇、九

二〇、九七六

六三〇〇

四五、四

二七、六、三

一七、四〇八

二〇八、八

七七、六、三

三八、五

二八〇、二

二七二、九

三三、〇六

一九〇、〇

二七、八

三七〇、〇

二五、七

三、六、六

一九〇、〇

二七、八

三五、〇

二五、五

二五、二

一九〇、〇

二七、八

三五、〇

右表ニ由テ觀ルニ鹽田一反歩ヨリ採取シタル鹹水ノ量ハ二百三十石乃至四百石ニシテ其收鹽量四十三石乃至百石ナリ殆ン
ト二倍ノ差異アリ斯ノ如ク從來ノ鹽業ハ複雜ナル事情ノ元ニアリテ生產狀況ヲ異ニシタルモノナリ
十九 所要人夫ノ員數、賃銀等 鹽業ニ從事スル人夫ハ農業ヲ營ミ傍ラ製鹽ニ從事スルモノ多ク冬季間ハ漁業若シク
ハ酒造手傳トシテ他人ノ地方ニ出稼スルモノ多シ今鹽田ノ大小ニ依リ人夫ノ員數及賃銀ヲ區別スレハ左ノ如シ

名稱	一行	濱二行	濱二行	一人ニ對スル賃銀(玄米)
濱仕一	人二	人二	人二	
濱取二	人四	人三	人三	
計三	人六	人一	石三	石斗

以上ノ如ク當地ハ米ヲ以テ支拂ヒヲナス慣習ナルヲ以テ賃銀ノ計算ハ支拂當時玄米ノ相場(市場價格)ニ依ルモノトス
二十 鹹水採收ノ時季 鹹水採收ノ時季 午前十一時後ニシテ乾燥未タ全カラス少シク鼠色ヲ呈スル時ヲ以テ最良ト
ス過乾ハ比重ニ比シテ製鹽量少シト云フ之レ當地ハ塗リ濱ナルカラ故ニ過乾スルトキハ砂底ニ沈降セル苦汁液ヲ吸上セシメ
テ鹹水中ニ混シ其比重ヲ高ムルニ由ルモノ、如シ

風位ハ南風(下リ)最モ宜シク之レニ次クヲ東南風(あい)トス

二十一 一年間ノ平均採鹹日數 最近四五年間ノ調査ニ依ルニ採鹹平均日數ハ左ノ如シ

採鹹日數 七十八日乃至八十二日 準備濱日數 春濱初メ準備四日 降雨後準備二十六日

二十二 鹽田一反歩ニ對シ一ヶ年間ノ平均鹹水採收量ハ左ノ如シ

上田 三百五十石乃至四百〇二石 中田 二百七十石乃至三百二十石 下田 二百三十石乃至二百五十石

以上ハ(第十八項)一ヶ年ニ於ケル採鹹量ノ項ニ述ヘタルカ如シ

二十三 準備濱及持濱其他採鹹ニ關スル操作ノ順序及方法

(一)準備 事業開始當初及降雨後ノ鹽田ニ對スル作業ハ濱起シト稱シ撒砂ノ地盤ニ密着スルモノヲ爬起スルノ目的ヲ以テこまざらひ(採鹹圖參照)ニ重量アル器物若シクハ石ヲ附ケ之レヲ引キ爬砂ヲ行フ其引方ハ縱横二回トス以下平日ニ同シ

(二)持濱 當地ハ日持ニシテ替持、二日持等ナク稀ニ曇天ニシテ撒砂ノ乾燥惡シク採鹹ヲナスノ不利ナル場合ニ限リ其儘之レヲ放置シテ翌朝之レニ海水ヲ撒布シテ平日ト同一ノ手續ニ由リ採鹹ヲナスコトアリ

(三)採鹹ニ關スル操作順序方法 採鹹作業順序ハ午前五時ニ始マリ濱仕ハ前日鹽田面上ニ勿撒セラレアル所ノ骸砂ヲシテ分布ノ公平ヲ期シ地盤トノ密觸ヲ保持センカ爲メこまざらひヲ縱横ニ引キ爬砂ヲ行フ此作業時間約二十分右作業終レハ濱仕ハひこけ(引桶)ヲ鹽田ノ中央適當ノ場所ニ据ヘコノ引桶ニハ荒鹽桶ニテ擔ヒ來ル所ノ海水ヲ充タシ自身其ノ中央ニ立チおちよけ(打桶)ヲ以テ左右前後ニ之レヲ撒布ス既ニ之レヲ丁レハ更ニ他ノ位地ニひこけヲ移シ撒布スルコト前ノ如クシ遂ニ鹽田面一帶ニ撒布シ丁ル此作業ハ海ヨリ遠キ一端ヨリ始メ海ニ接シタル一端ニ終ル此作業時間約一時間ニシテ此區域ヲ一行ト云フ

斯クシテ午前六時半ヨリ正乃午至午後二時迄擴布シ置クモノトス倘シ晴天ニシテ乾燥宜シキ時ハ一二回ノ補給撒布ヲナスコトアリ

而シテ午後二時ニ至レハ濱仕先ツ海水ヲ汲ミ來リテ引桶ニ湛ヘ濱取(女)ハえぶりヲ以テ鹹砂ヲ寄セ一定ノ畦ヲ作リ其側ニ垂槽ヲ運ヒもちニテ鹹砂ヲ入レ槽内漸ク砂量ヲ加フルニ及ヒあせ板ヲ槽ノ周縁ニ挿ミテ槽ノ容積ヲ増スコト幾ント二倍タラシメ終ニ鹹砂ノ槽内ニ充滿スルトキハ海水若シクハあいヲ注加シテ瀘過スルモノナリ瀘過セラレタル鹹水ハ實桶ニ取リ次ニあい桶ヲ以テ之ニ代フ實桶ノ鹹水ハ之ヲ釜屋内ナル貯藏桶ニ送致シ更ニあい桶ニ充ツレハ釣手ヲ有スル擔桶ニテ次ノ

垂レ桶ノ側ニ運搬シ槽ニ注入ス此ノ如クシテ既ニ浸出シ終レハ垂レ槽内ノ骸砂ハ出シ籠ヲ以テ鹽田面ニ搔キ出シ槽ハ之レヲ次ノ位置ニ移動セシメ骸砂ハばね(列)ヲ以テ鹽田面ニ撒布セラル斯ノ如ク循環作業ヲナシテ當日ノ業務ヲ終ルモノナリ

一 釜屋ノ構造 釜屋ハ其構造種々ニシテ約言スルヲ得サレトモ普通家屋ト其構造同一ニシテ家根ハ大概藁葺ナリ四邊ハ壁若シクハ藁ヲ以テ造リタルモノ多シ

二 釜 釜ハ鑄鐵製圓形ニシテ溫メ釜ヲ有スル者ナク而シテ煎熬釜ノ構造、形狀、大小、深淺等ハ別紙圖ニ示ス如クニシテ大概三種ニ類別スルコトヲ得

口	徑	底	側	深	中央部深	容	量
	六、四〇	五、八〇	一、〇〇	一、二〇			三、五〇
大	六、〇〇	五、三〇	〇、九〇	一、一〇			三、〇〇
	五、八〇	五、四〇	〇、八〇	〇、九五			
中							
小							

竈ハ粘土質ノ水生岩ヲ以テ疊ミタルモノニシテ一釜築、二釜築ノ差異アレトモ其構造、形狀、大小ハ別紙圖ニ示ス如キモノニシテ大同小異ナリ

石釜 ハ全然設備セルモノナシ

四 鹹水輸送裝置

ナシ

五 前熬ニ要スル器具

此器具ハ其數種々ナルモ普通使用スルモノハ四五種ニ過キス差シ桶ハあい桶ト其材料形狀ヲ同フシ鹹水ヲ釜ニ容ル、ノ用ニ供ス

桶 ハ二釜ヲ有スル釜屋ニアラサレハ之レヲ有セス鹹水ヲ釜ニ移ス際差シ桶ヨリ桶ヲ通シテ移スナリ

さぐり ハ鐵製ノ器ニシテ釜ニ附着スルコベ(甲)ヲ剥離スルノ用ニ供ス

鹽ころがし ハ煎上焚釜屋ニアラサレハ之レヲ有セス苦汁液ト鹽トヲ攪拌シテ煎ル際攪拌スルノ用ニ供ス
砥石、箕、灰出シ等 ハ有スルモノト否ラサルモノトアリ

鎌 ハ燃料ノ雜枝ヲ適宜切斷スルニ用フ

乙 鹹水煎熬

かすり ハ鹹水貯藏桶ノ底面殘溜ノ鹹水ヲ採取スルノ用ニ供シ目皿及同臺ハ煎上焚ニ於テ苦汁ヲ煮詰ムル際折出鹽ヲ掬ヒ揚クルニ用ユ

すまし桶 ハ眞鹽焚ニ於テ石灰鹽類及不純物ヲ除去スル爲メ釜ヨリ熱セル鹹水ヲ移シ以テ夾雜物ヲ沈降セシムルニ用フ
ごみとり桶 ハ圖ニ示ス如キ桶ニシテ不純物ヲ除去スル爲メ既ニ沸騰セル釜中ニ重量アルモノヲ附シ沈置セシメごみノ
進入スルヲ待テ之ヲ引揚クルモノトス

六 釜其他ノ煎熬用器具ノ新調費、修繕費、保存期限ハ左ノ如シ

名稱	員數	新調費	修繕費	存保期	備	考	名稱	員數	新調費	修繕費	存保期	備	考
釜差し桶	一	四五〇	四	四年	三十ヶ年後ニアラサレハ修繕ヲ要セス		火灰か目全澄し	一	二〇六	二〇六	一年		
さ桶	一	三	五				すり皿	一	二〇	二〇			
さ鹽ころがし	一	六	八	五年	一ヶ年ニ拾六錢ノ修繕費ヲ要ス		臺桶	一	二〇	二〇			
ごみとり柄振石	一	七	九				三尺	一	二〇	二〇			
砥箕鎌	一	五	七				六	一	二〇	二〇			

七 燃料ノ種類、名稱、產地、價格等

燃料ハ松割木及柴雜枝ニシテ近隣ノ山林ヨリ產出ス其ノ價格ハ左ノ如シ

松割木(生木)百貫目ニ付金壹圓

柴及雜枝 一把ニ付二錢六厘乃至三錢二厘

但シ柴及雜枝ハ三尺繩ヲ以テ束ネタルモノナリ

因ニ柴トハ山林ノ若木ヲ伐採セシモノ雜枝又ハ枝トハ樹木ノ種類何タルヲ問ハズ幹部ヲ除キ枝類ヲ束ネタルモノナリ

八 一釜ニ使用スル鹹水量 ハ釜ノ大小ニ依リテ差異アリト雖トモ三石ニ入ル、釜ニ對シ一晝夜二回ノ煎熬ヲ了スルニハ差シ壹石五斗ヲ加ヘ四石五斗(比重十五度)ヲ煎熬スルヲ普通トス同業者ニ就テ三石入釜ニ對シ實地調査ヲナシタル成モノナリ

績ハ左ノ如シ

事項	比重	九一十	十一十三	十三十四	十五十六	項	比重	九一十	十二十二	十三十四	十五十六
鹹水ノ溫度	(攝氏)	五石 五六〇	五石 五〇〇	四石 四六〇	四石 四二〇	製鹽水壹石ニ對スル 收鹽量	三石 二二〇	三石 二二〇	二石 二〇〇	二石 一八〇	二石 一六〇
煎熬鹹水量		二六〇	二〇〇	一六〇	一四〇	燃料ノ種類	二五〇	二五〇	二三〇	二三〇	二二〇
差入鹹水量		八六六	一二五	一二七	一二七	前熬ニ要シタル燃 料ノ量	二五〇	二五〇	二三〇	二三〇	二二〇
製鹽容重量		三七〇 <small>黄 タウ</small>	二八七	二八六	二八六	燃 料石壹ニ對スル	三〇二 <small>黄 タウ</small>	三〇二 <small>黄 タウ</small>	二八三	二八三 <small>合</small>	二七二
全重		八三四	七八一	七八五	七八五	柴雜枝	三五	三五	三三	三三 <small>合</small>	三一
水夾雜物		二〇〇	八二〇	九〇〇	七五〇	鑑定成績	六三	五六	五六	五六 <small>合</small>	五四
鹽化曹達		七六〇	七九一	七三	四五五	等級	五六	五五	四五	四五 <small>合</small>	五四
		八三四	八三八七	八二八七	八七五	四等	五六	五六	四五	四五 <small>合</small>	四五
						三等	五六	五六	四五	四五 <small>合</small>	四五
						三等	五六	五六	四五	四五 <small>合</small>	四五
						二等	五六	五六	四五	四五 <small>合</small>	四五

右ハ真鹽焚煎熬法ヲ取レルモノニ就テ調査シタルモノナルカ煎上焚煎熬法ヲ取レルモノニアリテハ燃料ハ差異ナキモ製鹽壹石ノ重量三拾貫ヲ超ユルモノ少ナカラス

該當事項ナシ

九 煎熬ニ使用スル各種石炭混合ノ割合

垂レ槽ヨリ採取シタル鹹水ヲ貯藏桶ニ容ル

十 鹹水ヲ釜ニ注加スルニ先タチ特ニ汚物ヲ除去センカメ濾過スル裝置

、際之ヲ濾過スルノ裝置アルノミ其構造、大小、方法ハ次ノ如シ

タルモノニシテ之レニ鹹水ヲ注加シテ濾過スルモノナリ

此ノ人夫ハ釜焚ト稱シ一ヶ年ノ就業日數ヲ平均

百日間ト假定シ玄米ヲ以テ之レヲ支拂フヲ例トス故ニ若シ金錢ヲ以テ支拂ヲナス場合ニハ支拂當時ノ玄米市場價格ヲ以テ

計算スルモノニシテ之カ給米量ハ鹽田ノ廣狹ニ由リ多少ノ差異アリ

鹽田反別 釜焚員數 壱人ニ對ス給米量 鹽田反別 釜焚員數 一人ニ對スル給米量

七八畝歩

壹人 壱石二斗

貳反歩

一人

參石

壹反歩 一人 貳石貳斗

四反歩

二人 貳石七斗

十二

一晝夜ニ煎熬ヲ終ル釜數

八項一釜ニ使用スル鹹水量ノ項ニ於テ述ヘタル如クニシテ一晝夜ノ煎熬ハ二回トス

十三

平年度ニ於ケル鹽田一反歩ノ收鹽量

ハ二百三十石乃至四百石トス

十四

居出シ場ノ構造

從來ノ居出シ場ナルモノハ釜屋ノ一隅ニ菰若シクハ蓆ヲ以テ圍ミ天井ハ蓆ヲ以テ蔽ヒタルニ

過キス從テ其大小等モ一定セス然ルニ專賣法施行以後ニアリテハ官廳ニ納付スルト鹽價ノ騰貴トノ關係ヨリ人々鹽ヲ叮重ニスルノ念厚キヲ加ヘ取扱ヒニ一進歩ヲ加ヘ居出シ場ノ如キモ今日ニアリテハ四方若クハ二方ヲ板ヲ以テ圍ヒ天井ヲ張リ

煤煙其他塵芥ノ鹽中ニ混入スルヲ防止スルニ至レリ其坪數ハ一坪乃至二坪ニシテ地盤ハ砂及木炭灰ヲ以テ之レヲ固メタルモノナリ

十五

當地煎熬方法 ニ二種アリ真鹽焚、煎上焚之レナリ

(イ) 真鹽焚 真鹽焚ハ專賣法施行後ニ於テ品質ノ改良ヲナサンカ爲メ專ラ當業者ノ主唱スル所ノ方法ニシテ其法ハ濾過セラレタル鹹水ヲ釜ニ入レ煎熬シ鹽ノ折出スルニ至ル頃差シト稱シテ更ニ鹹水ヲ注加シ柄振若クハごみどり桶ヲ以テ泡及石灰鹽類ヲ除去シ再ヒ鹽ノ折出スルニ先チテ釜中ノ鹹水ヲ盡クすまし桶ト稱スル三餘石ヲ入ル、桶ニ移シ石灰鹽類及砂等ノ混合物ヲ沈定セシメ釜ノ底ニ附着セルニベヲ剥キ其度ヲ計リ再ヒ釜中ニ移シ煎熬ヲ繼續シテ鹽ノ悉ク折出セラル、ヲ度トシ之レヲ砂床ニ揚ケ苦汁ヲ滴下セシメ殘液苦汁ハ之レヲ廢棄ス製鹽ハ砂床ニ置クコト凡ソ十二時間次回ノ製鹽採取ニ先チテ之レヲ鹽床(居出シ場)ニ移スモノナリノ斯ノ如クニ製シタル鹽ハ三等鹽以上トス

(ロ) 煎上焚 煎上焚ハ鹹水ヲ釜ニ注入シ煎熬スルハ前法ト異ナルナシト雖トモ石灰鹽類ヲ除去スルニハごみどり桶若シクハ柄振ヲ以テスルノミニテすまし桶ヲ使用セス而シテ鹽ノ悉ク折出セラル、ヤ鹽出シはねヲ以テ之レヲ目皿(別圖參照)上ニ掬ヒ揚ケ尙殘液苦汁ヲ繼續煎熬シ殆ント盡クルニ至リ曩ニ目皿上ニ揚ケ置キタル鹽ヲ再ヒ釜ニ下シテ鹽ころがしヲ以テ攪拌シ苦汁結晶ト混合シテ之レヲ煎リ後鹽床(居出シ場)ニ移シ置クナリ斯ノ如クシテ製シタル鹽ハ四等鹽以下トス

十六 煮、竈、燃料ノ變遷

釜及竈等ハ古來更ニ變遷ナシ

十七 煎熬ニ關スル其他ノ事項

煎熬ノ方法ハ專賣法施行後種々ノ變更ヲ來シタルモ現今ハ概略前記二法アルノミナレトモ來年度ニ至レハ尙多少ノ異動ヲ觀ルナランカト思料セラル

十八 一ヶ年間ノ平均煎熬日數八十二日乃至八十六日トス

一ヶ年間ノ平均收鹽量

ハ鹽田壹反步ニ對シ大概八十六石一萬三千七百六十斤ナリ

二十 之ニ關シテハ次項ニ於テ説明スヘシ

二十一 一ヶ年間ニ於ケル採鹹、煎熬ニ屬スル總費用及收支計算ハ左ノ如シ

收入之部

種目	上田	中田	下田	摘要	種目	上田	中田	下田	摘要
鹽田反別					賣揚金額	三七、五〇	三九、九〇	四二、二〇	
鹽田位地	直村字野々江				副產物灰量	三七、五〇	三九、九〇	四二、二〇	
製鹽量	二〇,〇〇〇 合				賣揚金額	四四、〇〇	五〇、〇〇	五五、〇〇	
製鹽斤量	三八、二〇 斤				總收入金	三七、九〇	四一、九〇	四六、九〇	
支出之部									
種目	上田	中田	下田	摘要	種目	上田	中田	下田	摘要
採鹹器具新調費	五、三九〇 円				全修繕費	七、〇〇	一、四〇	一、四〇	
全修繕費	八〇〇	四四、〇			釜借上費	七、〇〇	一、四〇	一、四〇	
鹽田修理費	五、五〇	二、五〇			竈修築費	二、九〇	一、九〇	一、九〇	
砂入替費	三、五〇	五、〇〇	七、〇〇	小作者負擔	釜屋修繕費	三、七〇	四、〇〇	五、五〇	小作者負擔
採鹹石要スル固定資本償却費	五、九五〇	五、一〇	一、五七〇	地主負擔	煎熬三要スル固定資本償却費	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	地主負擔
煎熬器具新調費	一、三三〇	一、三〇	一、二〇〇	小作者負擔	全修繕費	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	小作者負擔
燃料費	一、四〇八	九、三八〇	三五、〇〇〇	小作者負擔					

種目	上田			中田			下田			摘要			要種目		
	探鹹	煎熬	勞銀	探鹹	煎熬	勞銀	探鹹	煎熬	勞銀	地租	地稅	縣費	村費	組合費	
三三五〇〇	二八七五〇	二六〇〇〇	一五六四〇〇	二六〇〇〇	二五〇〇〇	一四五〇〇	三三五〇〇	二九五〇〇	二八五〇〇	二九四〇〇	二八四〇〇	二七五〇〇	二六五〇〇	二五五〇〇	二四五〇〇
二五〇	二五〇	五〇	一九五〇	一九五〇	一九五〇	一九五〇	二五〇								
九四〇〇	九〇〇〇	七〇〇〇	七〇〇〇	七〇〇〇	七〇〇〇	七〇〇〇	九四〇〇								
全上															
地主負擔															
固定資本利子															
二九七															
九四五															
一〇四															
二二〇〇〇															
小作者負擔															

收支計算（自作場合）

種目	上田			中田			下田			種目			要種目		
	上	田	中	上	田	中	上	田	中	下	田	中	下	田	
總收入金額	三七一九〇〇	三七一九〇〇	三七一九〇〇	四三八六〇〇	四三八六〇〇	四三八六〇〇	三七一九〇〇								
總支出金額	三五〇六三	三五〇六三	三五〇六三	四三四三八	四三四三八	四三四三八	三五〇六六								
差引益金	二二二五八	二二二五八	二二二五八	四四三三	四四三三	四四三三	三一八三								

收支計算（小作場合）

種目	上田			中田			下田			種目			要種目		
	上	田	中	上	田	中	上	田	中	下	田	中	下	田	
總收入金額	三七一九〇〇														
總支出金額	三五〇六六														
差引益金	二〇八三	二〇八三	二〇八三	三一八三											

二十二 採鹹煎熬ノ方法、鹽田、釜、竈其他ニ關シテ進歩シタル點及改良案

鹽專賣法ノ製鹽業ニ及ホシタル影響ハ一

ニシテ足ラスト雖モ今其主ナルモノヲ舉クレハ本年六月法ノ初メテ實施セラル、ヤ當業者ハ自己ノ製鹽ハ何レノ等級ニ属スルカヲ知ラサルノ故ヲ以テ一時杞憂ノ觀ヲ以テ迎ヘラレタリ然ルニ法ノ一タヒ普及セラル、ヤ鹽業者ハ品質ト價格トノ相關連シテ離ルヘカラサルヲ周知スルニ至リ鹽質ノ改良ニ重キヲ置カント欲スルモ亦生產費減少ニ留意スルモ少ナク適々之ヲ爲ス者アルモ收支償ハスシテ徒ニ賠償率ノ低廉ナルヲ唱道スルニ至レリ然ルニ七月十七日俄然專賣率ノ上昇ヲ報セラル、ヤ製鹽業者ハ競ヒ品質ノ改良ニ從事シ既ニ十四、十五兩項ニ於テ述ヘタル如ク居出シ場ノ改良、真鹽焚、煎熬法及煎熬器具ニ多少改良ヲ加フルニ至レリ斯ノ如ク品質ノ改良ニ就テハ多少見ルヘキ事實アリト雖モ生產費ノ節減ニ就テハ之ヲ顧ミルモノナシ是ニ於テ當所管内鹽出ヲ巡視シテ採鹹及生產費ノ節減ニ就テ種々調査ヲ遂ケ先ツ濕潤ニシテ採鹹量少キ鹽田ニ對シテハ地主ト交渉ヲナサシメ之カ排水ノ方法ヲ講セシメタルニ至極好結果ヲ以テ蛸島村一帶ノ鹽田ハ既ニ其工ヲ終ヘ

直村鹽田モ亦將ニ工事ニ着手セントス

尙今後ニテ改良スヘキ點種々アリト雖モ其眼目トスヘキモノハ生産費ノ節減ニアリトス其方法ハ現今ノ鹽區域ナル一行濱二行濱ヲ合同セシメテ約四反步前後ノ鹽田トナシ之レヲ一釜屋ニ附帶セシメ合同經營ヲナサシメ採鹹煎熬ニ關スル人員及器具テ節約シ生産力ヲ増加セシムルニ在リ此等ノ方法ヲ實行スルニ方リテハ多少事情ノ纏綿スルアリト雖モ不可能ノ事ニアラス明年度ニ多少ノ實現ヲ見ルナラン

斯ノ如ク專賣法ノ鹽業者ニ與ヘタル刺戟ハ偉大ニシテ直接間接ニ彼等ノ智囊ヲ開發シテ數十年間持續セラレタル舊慣ヲ打破シ鹽業ノ自立ヲシテ益強固ナラシメ斯業ニ一進歩ノ階梯ヲ造リタルハ皆是レ專賣法ノ賜ナリトス

第四章 製鹽及副產ノ種類用途

前段煎熬法參照

一 真鹽差鹽ノ區別 色澤白灰色ニシテ結晶中粒ナリ

二 鹽ノ理化學的性質 食用ヲ以テ第一トシ醤油釀造用及鹽藏用ヲ第二トス

三 鹽ノ主要ナル用途 鹽ノ各等級ニ對スル一石ノ重量ハ左ノ如シ

等級	量	等級	量	等級	量	等級	量
二等	一五一、二五	二等	二四、二〇〇	三等	一五八、三〇	四等	二五、三二八
三等	一六一、二五	四等	二五、八〇〇	五等	一七七、六一	五等	二五、三二八
四等	一七二、五〇	五等	二七、六〇〇	五等	一八〇、二三	五等	二八、四一七
五等	一八〇、二五	五等	二八、八四〇	五等	一八〇、六八	五等	二八、九〇八

右ニ示スカ如ク包裝當時釜屋ニテ秤量シタルモノト政府ニ收納スル場合ニ於テ秤量シタルモノト斯ノ如ク差異ヲ生スルハ幾多ノ取扱中結晶ノ粉碎セラレ自然一石中ニ入レラルヘキ質量ノ增加セシ故ナルヘシ

五 苦汁ノ用途 苦汁ハ撰種及豆腐製造、土質改良等ニ利用セラル、旨聞クモ當地ハ賣買殆ト絶無ト稱シテ可ナルヘシ

六 苦汁ノ利用法

未タ發見セラレス

七 苦汁ノ生產量 煎熬ノ方法ト關連スルモノナレトモ現今煎熬法ヲ以テスル時ハ一釜ニ付約一斗五升ヲ生產スルモ

ノトス

- 八 苦汁ノ貯藏裝置
之レヲ有セス煎熬ノ際副生苦汁ハ河海又ハ田畠ニ放棄ス稀ニ之レヲ貯藏スルモノハ六石乃至十
石入レノ桶ヲ以テスルノミ
- 九 苦汁一石價
金六七錢位ナルヘシト云フ
- 十 苦汁運搬ノ方法
稀ニ越中地方ニ販賣セラレ其運搬ノ方法ハ四斗内外ヲ容ル、樽數十個ヲ船積ミトシ持來リ之レ
ニ苦汁ヲ容レテ運搬スルモノナリト云フ
- 十一 苦汁ヨリ生スル副產物ノ製造
該當事項ナシ
- 十二 副產物ノ種類、用途
苦汁ノ外灰ヲ生スルノミ用途ハ肥料トス
- 十三 副產物ノ價格及販路
十釜ニ對シ約五斗入三俵ヲ出シ一俵金拾錢宛ニテ主トシテ越中地方ヘ賣販ス
- 十四 鼠鹽、かいさき鹽、泥鹽、釜立鹽等粗惡鹽ノ產額、用途等
該當事項ナシ
- ## 第五章 鹽ノ包裝及秤量
- 一 從來ニ於ケル一包裝鹽ノ容量
二種アリ五斗(十二貫乃至十四貫五百匁)及四斗(十貫乃至十二貫匁)ナリシト云フ
- 二 包裝ノ形狀
ハ別圖ニ示スカ如シ
- 三 包裝ノ編製方法及原料
包裝ハ藁ヲ以テ編ミタルモノニシテ其方法ハ先ツ藁二本ヲ以テ作リタル繩ヲ圖ノ如キ木
若シクハ石ニ巻キ附キ一對宛四個ヲ作リ之ヲ圖ノ如キ木ニ渡セル杆ニ配置シ繩二本宛ヲ以テ交互ニ編ムナリ
- 四 包裝ノ價格
時季ニ依リ高低アリト雖トモ五斗入藁俵一個ニ付(繩共)一錢五厘乃至一錢八厘トス
- 五 包裝ノ有様
包裝ハ一重ニシテ其形狀大小圖ニ於テ示シタルカ如シ而シテ販賣先ノ都合ニ依リ多少枰量增加シ或
ハ減少シタルコトアリ即チ組合ノ規約トシ五斗入ト定メアリシモ越中地方ハ四斗入好ムノ結果蛸島以南ノ諸村ハ四斗入
トナスニ至リ同以北ヨリ三崎村ニ至ル間ノ諸村ハ外浦ト同シク加賀向キトシテ五斗入レトナシタルカ如シ
- 六 包裝ニ附記スル商標
商標ノ附記ハナカリシモ其產地及品質ヲ票記スルタメ地名若クハ上中下等ノ焼印ヲ押捺シ
タルコトアリ之等ハ各村悉ク之レヲ行ヒタルモノニシテ例へハ(かの)(上戸)(かすが乃)等ノ如キ一村中ノ小字若シクハ村
名ヲ記シタルモノナリ

七 秤量器

一斗枡一個アリシノミニテ其形狀、大小ハ別圖ノ如シ

第六章 貯藏方法

一一倉庫ノ構造大小等 在來ノ鹽貯藏庫ハ其構造比較的簡單ニシテ鹽ヲ貯藏センカ爲メ殊更ニ特別ノ構造ヲナシタルモノナシ屋根ハ大概瓦葺ニシテ間口六間及十間奥行四間高サ梁下一丈ノモノ最モ多ク其側壁ハ土壁ニシテ内外兩面ニ板ヲ張リタルモノアリ或ハ外面ニ板ヲ張リ内面ハ長サ六尺餘ノ板ヲ二尺餘宛ヲ隔テ、縦列ニ補覆セルモノアリ又内部ノ構造ニ於テ屋根ヲ瓦葺トセルゼノニアリテハ天井ヲ設クルコトナク一般ニ板張リトナセルニ過キス床ハ濱砂ヲ七八寸ノ厚サニ敷キタルモノニシテ其他特別ノ裝置ヲ有セス

要スルニ當地在來ノ倉庫ハ保存及改良ヲ目的トナシタルモノニアラスシテ當業者カ製造品ヲ販賣スルニ至ルマテ一時該倉庫ニ貯藏スルヲ目的トシタルノミ

二 貯藏方法 従來貯藏ノ目的ヲ以テ包裝鹽ヲ所持スルコトナカリシヲ以テ貯鹽期間ニ於ケル俵損傷ノ程度及狀態ニ就キ比較セシコトナシ又撒鹽ノ儘ニテ貯藏セシコトナシ

三 俵ノ積ミ方 俵裝ハ五斗俵ニシテ其丈ケ一尺二寸ノモノヲ縱ニ七俵乃至八俵ヲ積ミ揚クルヲ例トセリ

四 真鹽差鹽ノ一ヶ年間ニ於ケル各貯藏減量及苦汁ノ滴出量等 従來ニ於ケル試驗ノ記錄ヲ有スルモノナク今尙試驗中ニ屬ス

五 苦汁採取方法及貯藏裝置 該當事項ナシ

六、七 古積鹽ノ製造方法等 當地ハ古來古積鹽トシテ特別ノ製造法ヲ以テ製造ヲナシタルコトナシ故ニ此ノ項ニ關スル事蹟ハ更ニナキモノトス

第七章 鹽ノ販賣

一 従來ニ於ケル鹽販賣ノ方法ハ「第十組合」ナル項目ノ下ニ詳述シアルカ如ク當地ニハ從來珠洲郡製鹽同業組合ナルモノアリテ製鹽者ノ製造シタル鹽ヲ一時組合各支部ニ建設シアル共同倉庫ニ貯藏シ仲買人ノ手ヲ經ヘ若クハ直接ニ同業組合各支部ノ幹事其製造者ヲ代表シテ鹽買受人來航毎ニ賣渡セシモノナリ故ニ當地ニハ別ニ問屋ナルモノ、必要ナク從テ其機關ナカリシモノナリ而シテ當地方ノ仲買ト稱スルハ單ニ鹽賣買上所謂賣買者ノ中間ニ立チ口入ヲナスニ止マリ賣買者ハ双方

ヨリ手數料トシテ一俵ニ付金一錢宛ヲ徵シ居タルニ過キス當時現品ノ授受トシテハ賣買契約成立ノ際拂出切符ヲ鹽買受人ニ渡シ買クヲ常トシ買受人ハ其ノ切符ヲ以テ隨時引取ヲナシタルモノナリ

又代金支拂ノ時期ニ就テハ一定ノ慣習ナカリシモ概未買受人來航ノ際米ヲ舟ニ積載シ來リ其米ヲ當地方ニテ販賣シ其賣上代金ヲ以テ鹽ノ代價ヲ即時ニ支拂ヒシモノニシテ要スルニ當時ノ販賣方法タル一種ノ所謂物品交換的賣買ニ酷似セリ

二 鹽ヲ賣買スル船頭ノ習慣及船頭カ鹽ヲ賣買運搬スル方法等 船頭自身ニテ鹽ノ賣買ヲナス者ハ多ク越中地方ヨリ玄米ヲ積載シ來リ當地方ニテ販賣シ其ノ賣上金ヲ以テ鹽ヲ買受ケ兩途ニテ利ヲ占メタルカ如キハ先ツ慣習ト見ルヲ得ヘキカ船頭カ鹽ヲ賣買運搬スル方法トテハ多クノ場合ハ小廻船ニテ運搬セシモノニシテ別ニ特記スル程ノコトナク又船員ノ給料等ノ如キハ多クハ家族ヲ以テ組織シ居ルカ故ニ其ノ給料モ今俄カニ幾何ト明記シ難シ

又鹽商ト船員トノ關係上鹽商ハ多ク船頭ノ親方ト稱スハキモノニシテ船頭ハ鹽商ノ指揮若シクハ依託ニ由リ鹽ヲ買受ケ一定ノ場所ニ運搬セシモノ、如ク又船頭自身ニテ鹽ヲ買受クル時ハ常ニ出入スル鹽商ニ對シ殆ント一定ノ手數料ヲ得テ賣渡セシモノ、如シ

三 従來ニ於ケル鹽ノ販路 従來當地方製鹽ノ販路ハ加賀三分、七尾八厘、越中六分二厘ト云フ如キ歩合ニシテ内唯一ノ販路地トシテハ越中地方ナリシコト確カナル事實ナリトス

而シテ用途ヲ定メテ製鹽ヲ注文スルカ如キコトハ曾テナカリシモノ、如シ

四 鹽商ニ於テ鹽業者ニ資金ヲ融通スルノ有無 著シキ事實ハナシト雖トモ仲買人ノ手ヲ經テ代金前渡ヲナシタルカ如キコトハ間々アリシモノ、如シ

五 従來ニ於ケル鹽ノ濱相場ハ平均左記ノ如シ

年 次	一石當リ濱相場	一升當リ小賣價格
三十五年	一、七九八	円〇二二
三十六年	一、八一九	〇二三
三十七年	一、五九一	〇二三

六 鹽價ノ定ノ方 トシテハ生產費ノ多寡及當地方各濱ノ相場ヲ比較對照シテ時々其ノ鹽價ヲ定メタルモノ、如シ販

七 販賣ノ季節

ヲ百分比ニテ季節別ニ表記セハ左ノ如シ

四 月 五 月 六 月 七 月 八 月 九 月 十 月
二 九 一二 一六 二五 二〇 一六

八 鹽ノ俵拔検査ノ方法

現品引渡ノ際海濱ニ鹽俵ヲ積ミ一應俵數等ヲ改メ引取リシ外別ニ拔検査等手段ハ採ラサリ

シモノ、如シ

九 鹽ノ賣渡ニ際シ重量、容量ノ減少ニ對スル處置

從來鹽ノ賣渡ニ際シテハ總テ重量ニ據リシコトナク單ニ容量ヲ

以テ賣渡シタルモノナリ且普通四斗入俵ト稱スルモノ、實容量ハ三斗四五升ニシテ其歩減ノ如キハ相互敢テ問ハサリシモノ、如ク又小賣一升ノ實量ハ所謂斗捧掛ヲ以テ量リモノニシテ約三百匁ナリ

十 鹽水賣買有無

該當事項ナシ

十一 鹽水見越買ノ有無

前項記載ノ如シ

第八章 鹽ノ運搬方法及運搬費

- 一 從來ニ於ケル鹽ノ運搬 概ネ小廻船ヲ以テ運搬セシモノニシテ船ノ積載數量ハ約三百乃至四百俵内外ナリトス
二 前記ノ運搬方法ニ依レル運搬先マテノ一定容量ノ運賃及出荷地ニ於ケル手數料等 左記ノ如シ而シテ保險料等ノ如キハ全ク是レナカリシモノナリ

鹽四斗入一俵ノ運賃及手數料等

仕向地	運賃	手數料	諸掛費	備考	仕向地	運賃	手數料	諸掛費	備考
加賀金澤市	一三〇	○一〇	○三五	七尾港ニ陸揚シタル 上漁車積トス	伏木町	○七〇	○一〇	○一五	
能登七尾町	○五〇	○一〇	○一五		全東岩瀬町	○七五	○一〇	○一五	
越中高岡市	○九〇	○一〇	○三五	伏木港ヘ陸揚シタル 上川解積トス	水見町	○七〇	○一〇	○一五	
全富山市	○九五	○一〇	○三五	東岩瀬港ニ陸揚シタル 上川解積トス	水橋町	○七五	○一〇	○一五	

第九章 小作人ト地主トノ關係

一 小作人ト地主トノ關係

ハ從來當地方ノ鹽業小作人ハ其ノ地主ニ對シ單ニ一定ノ小作料ヲ仕拂フノ外別ニ契約

又ハ日常需要品ノ供給ヲ仰クカ如キコトハ更ニ無ク又年ノ豐凶鹽價ノ高低等アル場合ト雖別段何等兩者間ニ異ナリタル關係ノ生スルコトサカリシモノ、如シ

第十章 組合

一、鹽製造組合二、同販賣組合三、燃料其他需用品購買組合ノ組織、規定及沿革

當地方ニハ未タ鹽販賣組合若クハ燃料其他需用品購買組合ナルモノ、組織ナク唯鹽製造組合並ニ鹽業獎勵財團ノ二アルノミ是等ノ組織ハ前記沿革ノ項ニ於テ述ヘシカ如ク明治五年政府ヨリ五萬餘圓ノ資金ヲ恩貸シタルヨリ當時資金取締規則ヲ制定シ次テ資金ノ取扱ヨリ製鹽ニ關スル諸般ノ業務ヲ行フ機關トシテ珠洲郡製鹽取締所ナル者ヲ組織シタルニ胎胎セシモノニシテ左記組合定款及寄附行為書ニ附記シアルカ如キ沿革ヲ以テ明治三十五年ニ珠洲郡製鹽同業組合又明治三十六年珠洲郡鹽業獎勵財團ノ組織ヲ見ルニ至リシナリ而シテ其定款、組織等ハ左記組合定款寄附行為書ニ審カナルヲ以テ省略セリ

珠洲郡鹽業獎勵財團寄附行為書

沿革

一、本財團設立ノ件ハ寄附行為書及珠洲郡鹽田地主製鹽業者ノ同意書ヲ添附シ明治三十六年四月十二日付ヲ以テ農商務大臣へ許可申請ス

十一、本財團寄附行為書當初呈出ノモノハ字句條項ノ訂正ヲ命セラレ明治三十六年十二月廿六日農商務省指令水第三三二號ヲ以テ本財團設立ノ許可アリタリ

一、本財團ノ設立ハ民法ノ規定ニ依リ明治三十七年一月十三日付輪島區裁判所飯田出張所へ申請シテ法人ノ登記ヲ得タリ
石川縣珠洲郡鹽業獎勵財團寄附行為

目的

第一條 本財團ハ石川縣珠洲郡ニ於ケル鹽業ノ改良、發達ヲ企圖スルヲ以テ目的トス
本財團ハ前項ノ目的ヲ達スル爲メ左ノ事業ヲ行フモノトス

一、鹽業者ニ必要ナル資金ヲ貸與スル事
二、珠洲郡製鹽同業組合經費ヲ補助スル事

名稱

第二條 本財團ノ名稱ハ石川縣珠洲郡鹽業獎勵財團トス

事務所

第三條 本財團ノ事務所ハ石川縣珠洲郡飯田町ニ設置ス

資産

第四條 製鹽業永續ノ爲メ明治五年政府ノ恩貸ニ依リ利殖シタル貯蓄金四萬千六百三拾圓七拾五錢貳厘ハ本財團ノ資金ト
（明治三十六年三月三十一日現在額）
ス

第五條 資金ハ製鹽業資金トシテ珠洲郡鹽業者ヘ貸附スル外之ヲ使用スルヲ得ス

資金ノ貸附ニ關スル規則ハ理事長之ヲ定メ主務官廳へ届出ヘシ之ヲ變更スルトキハ亦同シ

第六條 資金ヨリ生スル利子ハ本財團經費ヲ支辨シ且ツ珠洲郡製鹽同業組合經費ヲ補助シ尙剩餘アルトキハ資金ヘ繰入ル
、コトヲ要ス

第七條 資金及資金ヨリ生スル利子ハ確實ナル銀行へ預ケ入ル、コトヲ要ス

役員

第八條 本財團ニ理事三名ヲ置キ内一名ヲ理事長トス

理事ハ珠洲郡製鹽同業組合ノ組長及ヒ副組長ヲ以テ之ニ充ツ其任期ハ同組長、副組長ノ任期ニ據ル
珠洲郡鹽同業組合解散シタルトキハ珠洲郡鹽業者ノ互選ヲ以テ理事ヲ定メ其任期ハ四ヶ年トス

理事任期満限ノ後ト雖モ後任者就職スル迄ハ其職務ヲ行フ

第九條 理事長ハ本財團ヲ代表シ左ノ事務ヲ擔任ス

一、本財團ノ財產及證書、諸帳簿ノ管理ニ關スルコト
二、本財團ノ經費及收支ノ豫算並ニ會計ニ關スルコト

三、資金貸附及預入ニ關スルコト
四、珠洲郡製鹽同業組合費補助ニ關スルコト

五、事務員任免ニ關スルコト
六、其他必要ナル事項

第十條 理事ハ理事長ヲ補佐シ理事長事故アルトキハ代理ス

第十一條 理事長ハ左ノ事項ヲ處分セントスルトキハ監事ノ評決ヲ經ルヲ要ス

一、権利棄却ニ關スルコト 一、訴訟及和解ニ關スルコト

第十二條 本財團ニ監事九名ヲ置キ其職務ハ民法第五十九條ニ據ル

第十三條 監事ハ珠洲郡製鹽同業組合評議員ヲ以テ之ニ充ツ珠洲郡製鹽同業組合解散シタルトキハ第八條第三項ヲ準用ス

第十四條 理事長、理事、監事ハ無給トス

石川縣珠洲郡製鹽同業組合定款 (明治三十八年七月現行)

沿革

本定款ハ明治三十五年三月二十八日發起人橋元勗外五名ニ於テ作成シ同年四月十五日創立總會ノ決議ヲ經同年五月三日付ヲ以テ認可申請セリ明治三十五年六月十二日ヲ以テ農商務大臣ヨリ申請定款中第十二條等數條訂正スルヲ條件トシテ認アリタリ明治三十七年十一月通常組合會ニ於テ第五條、第十七條、第三十六條、第三十九條、第四十一條、第四十六條ノ更正追加ヲ決議シ明治三十八年二月二日付農商務大臣ノ認可ヲ得タリ

明治三十八年五月五日付臨時本組合ニ於テ鹽專賣法等ニ觸ル、數ヶ條項ニ就キ改正或ハ刪除ノ決議ヲナシ認可申請ノ處其内數ヶ條字句ノ修正ヲ命セラレタル後明治三十八年七月十五日付ヲ以テ農商務大臣ヨリ認可アリタリ

石川縣珠洲郡製鹽同業組合定款

第一章 總則

第一條 本組合ハ明治三十三年法律第三十五號重要物產同業組合法ニ依リ之ヲ組織ス

第二條 本組合ハ製鹽業ノ改良發達ヲ圖リ製鹽ノ粗製濫造ノ弊ヲ矯正スルヲ以テ目的トス

第三條 本組合ハ石川縣珠洲郡製鹽營業者及鹽田所有者ヲ以テ組織ス

第四條 本組合ハ石川縣珠洲郡製鹽同業組合ト稱シ事務所ハ石川縣珠洲縣郡飯田町ニ設置ス

第五條 本組合ハ石川縣珠洲郡ヲ以テ區域トシ更ニ左ノ町村大字ヲ以テ支部區域トシ各丈部ニ事務所ヲ設置ス

一、大谷村 第一部 (字長崎字大谷) 一、大崎村支部 (字馬場字笠波)

一、大谷村 第二支部 (字清水字片岩) 一、大崎村字高屋支部

一、大谷村 第三支部 (字眞浦字仁江) 一、日置村字折戸支部

一、鉢崎村 第一部 (字伏見字小泊字小泊新字雲津)

一、鉢崎村 第二支部 (字引砂字宇治) 一、上戸村 支部
一、堺島村 支部 一、見付村 支部
一、正院村 支部 一、鵜島村 支部
一、飯田町 支部

第二章 製鹽

第六條 製鹽ハ苦汁煤煙塵砂ヲ除去シ精製スルコトヲ要ス

第七條 製鹽容量ハ一俵五斗入トシ量目包裝共十三貫五百目(十四斤)以上トス(三十八年七月二十一日鹽務局出張所長ト協定ノ上容量正味八十斤以内トスルニ決定ス)

第八條 製鹽ノ包裝ハ支部ニ於テ期日ヲ定メ組長ノ認可ヲ請フコトヲ要ス 包裝ハ政府ノ指定ニ據ル

第九條 製鹽ハ私ニ包裝ヲ爲スコトヲ得ス

第十條 檢査済ノ製鹽ハ鹽務局指定ノ倉庫へ納付スルコトヲ要ス

第三章 加入及脱退

第十一條 新ニ製鹽業ヲ營ミ若クハ鹽田ヲ所有シ組合員ノ資格ヲ得タルモノハ所屬支部ヲ經テ本部へ届出スコトヲ要ス

第十二條 製鹽業ヲ廢止シ若クハ鹽田賣買讓與ニ依リ組合員ノ資格ヲ失シタルトキハ直ニ本人若クハ支部幹事ニ於テ其事

由ヲ記シ所屬支部ヲ經テ本部へ届出スコトヲ要ス

第十三條 本組合ヲ脱退シタルトキハ組合ニ對スル權利ヲ失フ

第四章 本部役員

第一款 選任

第十四條 本部ニ左ノ役員ヲ設ク

一、組長 一、副組長 二、評議員 九名

第十五條 組長、副組長及評議員ハ組合會ニ於テ選舉ス

組長、副組長ノ任期ハ四ヶ年トシ評議員ノ任期ハ二ヶ年トス但再選スルコトヲ得
補欠選舉ニ依リ就任シタルトキハ

前任者ノ任期ヲ繼承ス

役員ノ任期ハ就任認可ノアリタル日ヨリ起算ス

第二款 職務

第十六條 組長ノ職務左ノ如シ

- (一) 組合ヲ代表シ組合ヲ統轄ス (二) 組合會ノ議決ヲ執行ス若シ組合會ノ議決權限ヲ超エ又ハ製鹽業ノ利益ヲ害スルト認ムルトキハ其理由ヲ附シテ反省ヲ求メ尙其議決ヲ更メサルトキハ農商務大臣ニ決議ノ取消ヲ申請スルコトヲ得
- (三) 每年歲入出豫算ヲ調製シ通常組合會へ提出スル事 (四) 前年度ニ係ル出納決算成蹟及財產目錄ヲ調製シ通常組合會へ提出スル事 (五) 財產證書及帳簿ヲ管理スル事 (六) 組合内ノ役員及事務員ヲ監督スル事 (七) 其他此定款ニ規定シタル事項

第十七條 副組長ハ組長ヲ補佐シ組長事故アルトキハ代理ス但代理ノ順序ハ豫メ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム

第十八條 評議員ノ職務左ノ如シ

- (一) 組長ノ諮詢ニ應シ及事務執行ノ狀況ヲ監視スル事 (二) 組長副組長共ニ事項アルトキハ其職務ヲ代理スル事但代理ノ順序ハ豫メ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム (三) 其他此定款ニ規定シタル事項

第十九條 評議員ノ評決ハ次ノ組合會へ報告スルコトヲ要ス

第二十條 組合本部ニ書記二名ヲ置キ庶務ニ從事セシム書記ハ組長之ヲ任免ス

第二十一條 組長ハ本支部事務執行ニ關スル細則ヲ設ルコトヲ得

第五章 支部事務員

第一款 選任

第二十二條 支部ニ左ノ事務員ヲ設ク

- 一、幹事 一名 一、副幹事 一名乃至三名 一、書記 一名 一、倉長 一名乃至四名

第二十三條 幹事、副幹事ハ評議員會ノ意見ヲ聞キ組長之ヲ任免シ書記、倉長ハ幹事之ヲ任免ス

第二款 職務

第二十四條 幹事ノ職務左ノ如シ

- (一) 支部ヲ管理シ副幹事以下ヲ監督スルコト (二) 支部總會ノ議決ヲ執行シ支部財產證書及帳簿ヲ管現スルコト

(三) 每年支部歳入出豫算ヲ調製シ支部總會へ提出スルコト (四) 支部前年度ニ係ル出納決算成蹟及財產目錄ヲ調製シ支部總會へ提出スルコト

(五) 其他此定款ニ規定シタル事項

第二十五條 幹事ハ製鹽包裝ノ定日必ス現場へ出張シ品質包裝ヲ検査スルコトヲ要ス

第二十六條 幹事ハ検査済ノ俵中ヘ製造人ノ氏名ヲ記シタル札ヲ入レ其外面ニ検査ノ證トシテ左ノ烙印ヲナスコトヲ要ス

の 支部名

上 中 下

三十八年五月二十五日鹽務局出張所長ト協定ノ上當分上中下區別ニ付烙印ヲ爲スハ見合セ適宜目印ヲ付シ區別スルニ決ス

第二十七條 副幹事ハ幹事ヲ補佐シ幹事事故アルトキハ代理ス

第二十八條 倉長ハ倉庫ヲ保管ス

第二十九條 支部ノ耕取、衡取人及包裝人夫ハ幹事之ヲ任免ス

第三十條 支部ハ必要ニヨリ臨時雇ヲ置クコトヲ得

第六章 會 議

第一款 組合會

第三十一條 組合會ハ左ノ區畫ヨリ選出セラレタル議員二十三名ヲ以テ組織ス

一、大谷村第一支部 一人 二、大谷村第二支部 一人 三、大谷村第三支部 一人 四、大崎村支部 二人
五、大崎村高屋支部 一人 六、日置村折戸支部 一人 七、日置村支部 一人 八、三崎村支部 一人
九、鉢崎村第一支部 一人 十、鉢崎村第二支部 一人 十一、^{正院}鷲島村支部 一人 十二、^{正院}飯田町村支部 二人
十三、上戸村支部 二人 十四、見付村支部 一人 十五、鵜島村支部 三人 十六、松波村支部 二人

十七、^{宮崎}木村支部 一人

高倉村

第三十二條 組合會議員ハ左ノ資格ヲ具備スル者ノ中ヨリ之ヲ選舉ス

(一)丁年以上ノ男子 (二)選舉區内ニ於テ選舉期日以前滿二ヶ年以上製鹽業ヲ營ミ尙引續キ營業スル者又ハ區内ニ於テ鹽田地租年額十錢以上ヲ納ムル者公權剥奪停止若クハ禁治產者ハ選舉被選舉權ヲ有セス (三)陸海軍現役ニ服スル者若クハ事變ノ爲メ召集セラレタル者ハ選被選人タルヲ得ス

第三十三條 二人以上共同シテ營業ヲ爲スモノハ總代一人ヲ定メ選舉權ヲ行ハシム

第三十四條 議員ノ任期ハ四ヶ年トス但滿期再選スルコトヲ得

第三十五條 議員中欠員アルトキハ三ヶ月以内ニ補欠選舉ヲ行フ其任期ハ前任者ノ任期ヲ繼承ス

第三十六條 議員ヲ選舉セントスルトキハ組長ハ選舉ノ日ヲ定メ三十日以前ニ支部幹事若クハ組長ノ特任シタルモノヲ以テ選舉事務長ノ事務ヲ行ハシム選舉事務長ハ選舉會七日前其期日及選舉會場並ニ開會閉會時間ヲ定メ關係者ヘ告示ス

撰舉事務長ハ組長ヨリ撰舉事務ノ囑托ヲ受ケタル日ヨリ十日以内ニ選舉人ノ届書(鹽田所有セサル營業者ハ地主ノ連署チ要ス)ニ依リ選舉人名簿ヲ製シ五日間之ヲ關係者ノ縦覽ニ供ス

選舉事務長ハ組長ヨリ送付シタル投票用紙ヲ選舉期日三日以前選舉人ノ請求ニ依リ交付ス

第三十七條 選舉資格アルモノハ選舉人名簿ニ於テ脱漏又ハ誤載アルコトヲ發見シタルトキハ其縦覽期日内ニ於テ之ヲ選舉事務長ニ申立ルコトヲ得

第三十八條 選舉事務長ニ於テ前條ノ申立アルトキハ五日以内ニ之ヲ審查判定シ其申立正當ナリト認ムルトキハ其人名記入又ハ正誤シ其由ヲ告示ス

第三十九條 選舉人名簿ハ選舉會ノ前七日ヲ以テ確定トス

前項ノ規定ニヨリ確定シタル選舉人名簿ハ選舉無効トナリ更ニ選舉ヲ行フ場合ニ於テモ之ヲ更正セス

第四十條 選舉事務長ハ選舉會場ヲ管理ス

第四十一條 選舉人投票セントスルトキハ選舉事務長ヨリ交付セシ投票用紙ニ被選人一名及自己ノ氏名ヲ記シ封印シテ豫定ノ日時選舉事務長へ差出スコトヲ要ス

投票ハ代人ヲ以テ差出スコトヲ得但代人ハ選舉區内選舉有權者ニ限ル

第四十二條 投票點數調査終リタルトキハ選舉事務長ハ多數ヲ得タルモノ、被選舉ノ有無ヲ査定シ同數ハ年長ヲ採リ同年ハ抽籤ヲ以テ其當ヲ選定ム

第四十三條 左ノ投票ヲ無効トス

(一) 交付用紙ヲ用ヒサルモノ (二) 選舉人又ハ被選舉人ノ氏名確認シ難キモノ (三) 選舉人ノ氏名記載ナキモノ又ハ

被選人二名以上記載アルモノ

第四十四條 當選者ノ定リタルトキハ選舉事務長ハ當選人ニ當選狀ヲ渡シ當選人ハ五日以内ニ承諾書ヲ出スコトヲ要ス
當選人五日以内ニ當選ヲ辭スルカ又ハ承諾書ヲ出サ、ルトキハ順次投票ノ多數ヲ得タルモノヲ以テ當選トス此場合ニ於
テハ第四十二條ノ規定ヲ準用ス

第四十五條 選舉事務長ハ當選人承諾書ヲ出シタル後其住所氏名ヲ組長ヘ報告シ組長ハ當選人名ヲ組合ヘ公示スルコトヲ

要ス

第四十六條 選舉人選舉ノ効力ニ關シ又ハ當選人査定ニ不服アルトキハ當選人名公示アワタル日ヨリ七日以内ニ組長ヘ申
立評議員ノ裁決ヲ請フコトヲ得

第四十七條 組合會ノ議決スヘキ事件左ノ如シ

(一) 製鹽ノ改良發達ヲ謀ル事

(二) 經費ノ豫算並ニ收入支出方法ノ事

(三) 決算報告ヲ認定スル事

(四) 財產處分ニ關スル事

(五) 新ニ義務ノ負擔ヲ爲シ及權利ノ棄却ヲナス事

(六) 其他此ノ定款ニ規定シタル事項

第四十八條 組合會ハ帳簿及書類ヲ檢閱シ事務ノ管理議決ノ執行並ニ收入支出ノ正否ヲ監査スル權ヲ有ス

第四十九條 組合會ノ議長ハ組長ヲ以テ之ニ充ツ組長事故アルトキハ副組長ノ一人之ニ當ル正副組長共ニ事故アルトキハ

出席議員ノ互選ヲ以テ假議長ヲ定ム 議長ハ議事ヲ整理シ其秩序ヲ保持ス

第五十條 組合會ノ議案ハ組長又ハ議員三名以上ノ同意ヲ以テ提出スルコトヲ得

第五十一條 組合會ノ議事ニ參與シ議案ノ説明ヲナスコトヲ得

第五十二條 組合會ハ通常會、臨時會ノ二種トシ通常會ハ毎年十月之ヲ開キ臨時會ハ必要アル時其議件ニ限リ之ヲ開ク

組合會ハ組長之ヲ招集ス若シ議員三分ノ一以上請求アルトキハ之ヲ招集ス

第五十三條 組合會ハ議員半數以上出席スルニアラサレハ會議ヲ開キ議決ヲ爲スコトヲ得ス

第五十四條 組合會ノ決議ハ過半數ニ依ル可否同數ナルトキハ議長ノ決スル處ニ依ル

第五十五條 組合會ニ於テ選舉ヲ行フトキハ無記名投票ヲ以テシ有効投票ノ多數ヲ得タルモノヲ以テ當選トス若シ同數ナ

ルトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム

第五十六條 組合會ノ會議ハ公開ス

議長ノ意見若クハ議長ノ請求ニ依リ傍聽ヲ禁スルコトヲ得

第五十七條 會議中此定款若クハ議事規則ニ違ヒ其他議場ノ秩序ヲ紊ス議員アルトキハ議長ハ之ヲ制止シ又ハ發言ヲ取消サシム其命ニ從ハサルトキハ議長ハ當日ノ會議終ル迄發言ヲ禁止シ又議場外ニ退出セシムルコトヲ得

第五十八條 會議ノ傍聽喧騒ニ涉リ其他議事ノ妨害ヲ爲スモノアルトキハ議長ハ之ヲ制止シ其命ニ從ハサルトキハ之ヲ退場セシム

第五十九條 組合會ハ書記ヲ置キ議長ニ隸屬シテ庶務ヲ整理セシム書記ハ議長之ヲ選任ス

第六十條 組合會ハ書記ヲシテ議事錄ヲ製シ議事ノ顛末並ニ出席議員ノ氏名ヲ記錄セシム五區監査共ニ其結果ヲ有ス
議事錄ハ議長及議員二名署名ノ上保存スルコトヲ要ス

第六十一條 組合會ハ其議事規則及傍聽人取締規則ヲ設クルコトヲ得

第一款 支部總會

第六十二條 支部總會ハ毎年一月ニ於テ通常會ヲ開設シ必要ニ依リ臨時會ヲ開設スルコトヲ得

總會ハ幹事之ヲ招集ス 總會ハ支部組合員半數以上ノ出席者ヲ以テ成立ス但再回招集ノ場合ハ此限ニ非ス

第六十三條 總會ノ議決スヘキ事件左ノ如シ

(一) 支部經費ノ徵收方法ヲ定ムル事 (二) 幹事ヨリ提出スル議案ヲ議決シ並ニ決算報告ヲ認定スル事

(三) 鹽田借地料、燃料、釜借入料及人夫給料ノ標準ヲ調査スル事 (四) 其他此定款ニ規定シタル事項

第六十四條 總會ハ帳簿及書類ヲ檢閱シ事務ノ管理議決ノ執行並ニ收入支出ノ正否ヲ監査スル權ヲ有ス

第六十五條 總會ノ議長ハ幹事ヲ以テ之ニ充ツ幹事事故アルトキハ副幹事ノ一人之ニ代ル正副幹事共事故アルトキハ出席組合員中ヨリ假議長ヲ定ム

第六十六條 總會ノ議決ハ過半數ニ依ル可否同數ナルトキハ議長之ヲ決ス

第六十七條 總會ノ決議ハ總テ組長ノ認可ヲ得テ執行スルコトヲ要ス

第七章 會計

第一款 本部經費

第六十八條 本部ノ會計ハ毎年一月ニ始リ十二月ニ終ル

第六十九條 本部ノ經費ハ珠洲郡鹽業獎勵財團補助及雜收入ヲ以テ支辨ス

第七十條 本部役員俸給額、旅費額及組合會議員旅費額ハ組合會ノ決議ニ依リ之ヲ定ム

第七十一條 本部經費收支決算上剩餘金アルトキハ翌年度ヘ繰越金トス

第二款 支部經費

第七十二條 支部會計ハ毎年一月ニ始マリ十二月ニ終ル

第七十三條 支部經費ハ製鹽ノ俵數ニ由リ徵收ス但一俵ニ付金四錢ヨリ超過スルコトヲ得ス

第七十四條 支部事務員俸給額、旅費ハ支部總會ノ決議ニ依リ之ヲ定ム

第七十五條 組合員ノ過怠金ハ支部ノ雜收入トス

第七十六條 支部經費收支決算上剩餘金アルトキハ翌年度ヘ繰越金トス

第八章 處分

第七十七條 組合本支部役員職務上懈怠若クハ過失ニ依リ組合本支部ニ損害ヲ被リタルトキハ本部ニ係ルモノハ組合會支

部ニ係ルモノハ支部總會ノ決議ニ依リ其損害ヲ賠償セシムルコトヲ得但風水火又ハ盜難其他避ク可カラサル損害ハ此限

リニアラス

第七十八條 組合本支部役員事務員不正行爲アリタルトキハ評議員會ノ決議ヲ以テ解任スルコトヲ得

第七十九條 組合員中第二章第六條ニ違約シタルトキハ幹事ハ組長ノ認可ヲ得テ過怠金五圓以下ヲ徵收ス

第八十條 組合員中第二章第九條ニ違約シタルトキハ幹事ハ組長ノ認可ヲ得テ過怠金百圓以下ヲ徵收ス

第八十一條 組合員中組合ノ事業ヲ妨害シ又ハ組合ノ信用ヲ害スル所爲アリタルトキ若クハ前條ノ違約再回ニ及フトキハ

幹事ハ組長ノ認可ヲ得テ過怠金貳百圓以下ヲ徵收スルコトヲ得

第八十二條 組合員中過怠金若クハ支部經費ヲ通告ノ期日內ニ納メサルトキハ一日ニ付金拾錢宛ヲ增課ス

第八十三條 此定款ヲ變更セントスルトキハ組合會ニ於テ議員三分ノ二以上出席シ其三分ノ二以上ノ同意ヲ要ス

第八十四條 組合解散シタルトキハ組長及副組長ヲ以テ清算人トシ清算事務ヲ取扱ハシム

第十章 雜則

第八十五條 本組合ノ公示ハ關係町村役場前ニ掲示スルヲ以テ公示式トス

第八十六條 初期ノ議員選舉及組合會ニ關スル組長ノ行フヘキ事務ハ創立總會々長タリシモノ之ヲ行フ

附則

本改正中第四十九條ハ任期満限後ヨリ施行シ其他ハ明治三十八年六月一日ヨリ施行スルモノトス

第十一章 試験

一、鹽業ノ改良ニ關スル機關トシテ當地方ノ珠洲郡製鹽改良試驗場ナルモノ、設備アリ今其由來及試験ノ事蹟等是カ概要ヲ摘錄セバ抑モ當試驗場タルヤ明治二十七年地方ノ鹽業家三名ヲ本郡ノ製鹽會ヨリ鹽業ノ視察トシテ關西地方ニ派遣セシメ彼ノ地ノ鹽業ヲ踏査シ歸來試驗場ノ建設其ノ他二三ノ改良事項ヲ建議シ茲ニ明治二十八年二百七十八圓四十九錢四厘ノ建設費ヲ以テ珠洲郡製鹽改良試驗場ナルモノヲ創設セリ而シテ派遣員ノ提出セシ改良事項並ニ是レカ實施後ノ事蹟及適否等ハ即チ左ニ派遣委員提出ノ改良事項並ニ實施後事蹟及適否等ヲ示サン

一、潮水ハ踏切水車或ハ唧筒ヲ用ヰテ吸上ル方法ヲ設クルコト

(イ) 潮水ヲ踏切水車ヲ以テ吸上クルコト多大ノ經費ヲ要スルト鹽田ノ部面ヲ損スルトノ故ヲ以テ全然實行ニ至ラサリシ

(ロ) 潮水ハ唧筒ヲ以テ吸上ルコト

明治三十二年ニ於テ實行セシニ多量ノ潮水ヲ一時ニ撒布スルニハ稍々簡便ナルモ當地方ノ鹽業ニハ適セスト認メ中止セリ

一、潮水或ハ實水ヲ運フニ掛桶ヲ用ユルコト 杉材ヲ二ツ割ニシ覓ヲ用ヒ三十二年ニ於テ實行シタルニ一石ノ潮水或ハ實水ヲ輸送セントセハ約五年ハ漏出スル等不成功ニ終ヘシ爲メ中止セリ

一、實水ヲ數日分溜メ晝夜焚ノ方法ヲ採ルコト 若シ實行スルニ於テハ鹹水貯藏場ヲ漆喰塗トシ恰モ大ナル泉水ノ如キ

モノヲ設ケサルヘカラス之レ當地ノ如キ小規模ニ屬スル鹽業ノ實況ニ徵シ不經濟タルノ故ヲ以テ技術家ノ注意ニ據リ

實行セサリキ

一釜屋ニ煙筒ヲ設クルコト

二十八年直ニ實行シ其功空シカラス今尙ホ現存ス

一温メ釜ヲ据付クルコト

二八年實行シ其成果見ルヘキモノアリ今尙使用ス

一釜屋破風等ニ蒸氣拔ヲ設クルコト

實行シ好果アリ

一除泡ノ爲メあらめ煮汁等ヲ用フルコト

實行セス

一鹽床ニ苦汁抜ヲ設クルコト

實行シ好果アリト

一竈屋入口ニ蓮戸ヲ設クルコト

事實上實行スル能ハス

一苦汁締ハ一切禁スルコト

亦初焚ノ鹽ヲ賣出スコトヲ禁スルコト

何レモ實行シ居レリト

尙ホ右試驗場ニ於ケル試驗ノ事蹟ニ付テハ今當業者ノ行ヒタル試驗成蹟表ノ如キモノヲ得タルヲ以テ左ニ之ヲ示サン

今回珠洲郡製鹽改良試驗場ニ於テ第二回ノ試驗成蹟ハ左ノ通ニシテ第一回試驗ノ成蹟ト比較スルニ左表ノ如シ

第一回

第二回

比較

實水ノ度	十七度五	十二度二五	五度二五
實水ノ一釜量	一石二斗	一石二斗	○
一釜ヨリ鹽ノ上高	四斗五升	三斗六升八合餘	八升二合弱
一釜ニ要セシ割木代	七錢五厘九毛餘	○	○
同松枝代	七錢九厘三毛餘	○	○

但二回ノ試驗ハ九月十九日ヨリ同二十五日ノ兩度ナルヲ以テ之レヲ平均シテ本表ニ掲ケシナリ

二回ノ試驗ニ用ヒシ實水ハ稀薄ナル爲メ一釜ニ付鹽八升二合ノ減收トナリ實水ノ厚薄ニヨリ收穫ノ損益明カナリト雖モ薪

材ニ至リテハ實水ノ度同一ニアラサル爲メ直チニ損益ヲ明カニスル能ハス依リテ試驗ノ結果ニヨリ算出對照セハ左表ノ如シ

松枝割木比較

一釜ニ對スル薪材代	五錢五厘五毛余	七錢九厘三毛余
	七錢九厘三毛餘	十一錢四厘二毛餘
		三錢四厘九毛餘

鹽一石ニ對スル同上	十二錢三厘三毛餘	十七錢七厘七毛餘
	廿一錢五厘三毛餘	卅一錢〇三毛餘
		五錢四厘四毛餘

但シ右方ノ數ハ實水十七度半、一釜一石ニ斗入、鹽四斗五升ヲ得タルノ計算ニシテ左方ノ數ハ實水十二度二十五、一釜一石ニ斗入、鹽三斗六升八合ヲ得タルノ計算ナリ右ノ通リニシテ薪材ハ松枝類ヲ用ヒ利益ノ大ナルコトヲ知ルヘシ

第十一章 輸出入及試賣

一 支那、朝鮮、浦潮ノ各方面ニ輸出又ハ試賣ヲナセシコトハ曾テナキモノ、如ク偶々前記ノ方面ニ向ケ一、二回ノ輸出ヲ試ミタル者アルモ开ハ當地方ノ製鹽者直接ニ是レヲナシタルニアラスシテ他地方ノ商人ニシテ當地方ノ產鹽ヲ買受ケシ上更ニ前記ノ方面ニ試賣セシモノナラン

又諸外國ヨリ輸入シタルコト未タ曾テナカリシモノ、如シ

第十二章 鹽田以外ノ製鹽裝置及方法

第十四章 燒鹽

一 當地方ニハ未タ燒鹽ノ試製タニナセシ者ナキカ如シ

第十五章 再製鹽

一 再製鹽ヲ目的トシタル製造場ナシ

第十六章 鹽田ノ地價等

一 鹽田ノ地價等ハ左ノ如シ

(イ) 鹽田地價

一段歩當リ地價

一一、八二三

一一、一四六

九、八一〇

七、三四四

一一、四九七

七、〇〇七

九、七七一

(ロ) 鹽田ノ時價

一段歩當リ時價

四六、八二〇

三九、三〇〇

三四、八七五

一一、五〇〇

九八、〇〇〇

一〇五、〇〇〇

六七、三〇五

村別戸

直上鉢松蛸村

崎島波崎戸

平均

(甲)

村別戸

直上鉢松蛸村

崎島波崎戸

平均

(乙)

村別戸

直上鉢松蛸村

崎島波崎戸

平均

(ホ) 鹽田ト田畑トノ時價對照

(ホ) 鹽田ト田畑トノ時價對照
(イ) 小作料 小作料モ亦各漁別ニ依リテ多少ノ差異アルモ殆ント大同小異ナリ而シテ當地方ニテハ從來米ヲ以テ支拂ヒ且ツ一行ノ小作料何程ト契約シタルモノニシテ其額即チ左記ノ如シ

一ヶ年同一行ノ小作料

五石六斗

四石六斗

三石六斗

二石二升

一升

直上戸均
一〇五、七五〇

直上戸均
二五、八〇〇

直上戸均
一七、〇〇〇

直上戸均
一二〇、〇〇〇

直上戸均
一〇六、九一六

直上戸均
二三、二六六

一段歩時價
六七、三〇五

一段歩時價
一〇六、九一六

一段歩時價
二三、二六六

一段歩時價
一升

鹽田

田畑

田畑

田畑

田畑

田畑

田畑